

科目名	解剖学ⅢA				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	3階基礎医学実習室
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎である。本講義では、運動器系の基礎となる骨と関節について、講義や小グループによる演習を行って学習する。								
一般目標	①骨の名称や部位名など骨に関する基礎知識を習得する。また、各骨の構造の特徴など基本的構造について知識を習得する。 ②頭部、四肢、体幹に存在する関節の名称と構造の概要について知識を習得する。								
テキスト 参考書等	教科書:プロメテウス解剖学 コア アトラス 最新版 (医学書院) /PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版(南江堂) 参考書:解剖学講義 南山堂、系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)								

到達目標

知識(認知領域)  
 ・骨の構造、名称、部位名称、特徴を覚えることができる。また、骨模型を模写できる。  
 ・関節の構造、名称を覚えることができる。

技術(精神運動領域)  
 ・骨模型を使用して、名称、部位名称を説明できる。

態度(情意領域)  
 ・授業に意欲的に参加できる。  
 ・課題(指定された骨をスケッチブックに模写する)を完成し、提出できる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	解剖学総論	骨解剖を学ぶにあたり基礎的な医学的用語を理解し説明できる。	解剖生理学p9～p14を一読しておく。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
2	骨学総論(骨格系)	骨の構造や発生について総論的に理解し説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
3	全身骨格	骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
4	骨と関節1(鎖骨・肩甲骨)	鎖骨、肩甲骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
5	骨と関節2(上腕骨)	上腕骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
6	骨と関節3(尺骨・橈骨)	尺骨・橈骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
7	骨と関節4(手の骨)	手部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
8	骨と関節5(胸骨・肋骨)	胸骨・肋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
9	骨と関節6(頭蓋骨)	頭蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
10	骨と関節7(寛骨)	寛骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
11	骨と関節8(大腿骨・膝蓋骨)	大腿骨・膝蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
12	骨と関節9(脛骨・腓骨)	脛骨・腓骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
13	骨と関節10(足の骨)	足部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
14	骨と関節11(椎骨・仙骨・尾骨)	椎骨・仙骨・尾骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
15	まとめ	骨解剖学(総論、上肢、下肢)について復習し、各部位を説明できる。また、課題を完成させることができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	( )内はGPA点数

担当教員: 山崎 由真      実務経験紹介: 作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。

科目名	解剖学ⅢB				単位数	2	時間教	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	3階基礎医学実習室
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。本講義では、運動器系の基本となる筋について学習する。								
一般目標	①骨格筋の一般的な構造と機能についての知識を習得する。 ②人体の主要な骨格筋について、その構造(起始・停止、走行、神経支配など)を知り、その作用についての知識を習得する。								
テキスト 参考書等	教科書:プロメテウス解剖学 コアアトラス 最新版(医学書院)/PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版(南江堂) 参考書:解剖学講義(南山堂)/系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)								

到達目標									
知識(認知領域) ・筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配を覚え、筋模型で説明できる。 ・筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。									
技術(精神運動領域) ・筋模型を使用して、部位名称を説明できる。									
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・授業に出席する。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	筋学総論、運動方向の名称	筋組織の種類や特徴、骨格筋の基本的構造について説明することができる。骨格筋の生理的作用や筋による運動方向などの基本的作用について説明できる。	プロメテウスp396、p500に記載される筋肉名の読み方(ふりがな)を調べておく。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
2	肘関節に作用する筋	肘関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
3	肩甲上腕関節の筋	肩甲上腕関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
4	上肢帯の筋	上肢帯の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
5	手外在筋①	手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
6	手外在筋②	手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
7	手内在筋	手内在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
8	内・外寛骨筋	内・外寛骨筋の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
9	深層外旋六筋	深層外旋六筋について各筋の名称と構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
10	大腿前面の筋	大腿前面の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
11	大腿後面、内側の筋	大腿後面、内側の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
12	下腿前面、外側面の筋	下腿前面、外側面の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
13	下腿後面の筋	下腿後面の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
14	足底、背部、腹部の筋	足部、背部、腹部の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
15	顔、頸部の筋	顔、頸部の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	( )内はGPA点数
担当教員	山崎 由真		実務経験紹介	作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。	

科目名	解剖学ⅢC				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	治療室
授業概要	医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この実習では、以下を目標に学習する。								
一般目標	①評価・治療の指標となる骨を正確に触察できる技術を習得する。 ②筋を正確に触察できる技術を習得する。								
テキスト 参考書等	【教科書】機能解剖学的触診技術 第2版 上肢/下肢・体幹 (メジカルビュー社) 【参考書】基礎運動学(医学書院) プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版 医学書院								

到達目標

知識(認知領域)  
①筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配、走行を覚え、筋模型で説明できる。  
②筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。

技術(精神運動領域)  
①筋の走行を正確に触診することができる。  
②患者に不快感を与えない触り方が出来る。

態度(情意領域)  
・授業に積極的に参加することができる。  
・患者に不快感を与えない立ち居振る舞いが出来る。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	触察:オリエンテーション	あらゆる運動機能系評価の基礎となる骨・筋の触診について、その概要・意義を理解することができる。	触診の意義や概要について教科書を読み予習する。(30分) 授業内容を復習し、次回の小テストに備える。(30分)
2	触察:上肢の骨	上肢骨のランドマークを触診することができる。	上肢の骨のランドマークを教科書で確認する。(30分) 触診した骨の位置を復習し、次回小テストに備える。(30分)
3	触察:上肢帯の筋	上肢帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	上肢帯の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
4	触察:上肢の筋	上肢の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	上肢の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
5	触察:前腕の筋	前腕の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	前腕の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
6	触察:手指の筋	手指の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	手指の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
7	触察:上肢まとめ	試験に備え上肢の筋について復習し、理解を深めることができる。	これまで学習した上肢の骨・筋全体を復習する。(30分) 上肢領域全体を復習し、次回小テストに備える。(30分)
8	触察:頸部の筋	頸部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	頸部の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
9	触察:下肢の骨・靭帯	下肢骨のランドマーク、靭帯を触診することができる。	下肢の骨のランドマークと靭帯を確認する。(30分) 触診した骨・靭帯を復習し、次回小テストに備える。(30分)
10	触察:骨盤帯の筋	骨盤帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	骨盤帯の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
11	触察:大腿の筋	大腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	大腿の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
12	触察:足部の骨	足部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	足部の骨・筋の起始・停止を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
13	触察:下腿の筋	下腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	下腿の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
14	触察:体幹の筋	体幹の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	体幹の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
15	触察:下肢・体幹まとめ	試験に備え体幹・下肢の筋について復習し、理解を深めることができる。	下肢・体幹の骨・筋全体を総復習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	( )内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	病院勤務において15年間、筋疾患の治療に携わった経験あり	

科目名	運動学 I				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT/OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	解剖学・生理学を基礎として、関節運動に関わる身体の構造や、上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動が起こるメカニズムについて学ぶ。								
一般目標	上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動について説明でき、そのメカニズムについての知識を身につける。								
テキスト 参考書等	基礎運動学 第7版 中村隆一 著(医歯薬出版) 基礎運動学テキスト(南江堂)								

到達目標									
知識(認知領域) 各関節の構造の特徴と機能について説明できる。 各関節運動の主動筋、補助筋、拮抗筋を列挙できる。									
技術(精神運動領域) なし									
態度(情意領域) 授業に出席し、主体的に参加できる。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	運動学とリハビリテーション①	本講義の概要を理解できる。 運動学とはどのような学問か、その重要性も理解し説明できる。	基礎運動学テキストp3～12を読む(30分)。 基礎運動学テキストp3～12を読み直して復習する(30分)。
2	運動学とリハビリテーション②	姿勢、動作、行為の違いを理解し説明できる。 骨と関節の運動の分析を理解し説明できる。	姿勢と動作の違いについて予習する(30分)。 骨と関節の運動分析の方法を復習する(30分)。
3	神経筋骨格系の機能①	関節の構造と機能を理解し説明できる。	関節の基本構造について予習する(30分)。 各関節の種類と特徴を整理して復習する(30分)。
4	神経筋骨格系の機能②	筋の構造と機能を理解し説明できる。	筋の微細構造について予習する(30分)。 筋収縮の仕組みと種類を復習する(30分)。
5	肩関節の機能と構造①	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肩甲骨の骨と関節の名称を確認する(30分)。 肩関節の動きと関与する筋を復習する(30分)。
6	肩関節の機能と構造②	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肩関節の靭帯の役割を予習する(30分)。 肩の安定性を高める筋の機能を復習する(30分)。
7	肩関節の機能と構造③	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肩関節の複合的な動きを予習する(30分)。 肩関節全体の構造と機能の総復習をする(30分)。
8	肘関節の機能と構造①	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肘関節を構成する骨と名称を予習する(30分)。 肘の屈伸に関わる筋と動きを復習する(30分)。
9	肘関節の機能と構造②	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肘の靭帯と関節包の構造を予習する(30分)。 前腕の回内回外運動の仕組みを復習する(30分)。
10	肘関節の機能と構造③	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肘関節の可動域と制限因子を予習する(30分)。 肘関節周囲の筋の役割を整理して復習する(30分)。
11	手関節・手指の機能と構造①	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 手関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	手根骨の名称と並びを予習する(30分)。 手関節の動きと主動筋を復習する(30分)。
12	手関節・手指の機能と構造②	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 手関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	指の関節の名称と構造を予習する(30分)。 手指の複雑な動きと筋の作用を復習する(30分)。
13	手関節・手指の機能と構造③	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 手関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	手の把持動作の種類を予習する(30分)。 手関節と手指の機能について復習する(30分)。
14	顔面の機能①	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靭帯で説明できる。	顔面の筋の名称と配置を予習する(30分)。 表情筋と咀嚼筋の働きを復習する(30分)。
15	顔面の機能②	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靭帯で説明できる。	顔面の感覚と運動の制御を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	( )内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として臨床・教育経験を10年以上有する	

科目名	運動学Ⅱ				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	解剖学・生理学を基礎として、関節運動に関わる身体の構造や、関節運動が起こるメカニズムについて体幹・下肢関節・歩行の知識を習得する。								
一般目標	体幹・下肢の関節運動について説明でき、正常歩行の特徴についての知識を身に付けることができる。								
テキスト 参考書等	・基礎運動学 7版(医歯薬出版) ・基礎運動学テキスト(南江堂)								

到達目標

知識(認知領域)  
 ①各関節の構造の特徴と機能について説明できる。 ②各関節運動の主動作筋、補助動作筋、拮抗筋を列挙できる。  
 ③各関節運動のメカニズムを説明できる。 ④正常歩行に関する用語を正しく使用し、歩行運動を説明できる。

技術(精神運動領域)  
 なし

態度(情意領域)  
 授業に積極的に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	講義オリエンテーション 下肢・体幹の構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義の概要を理解できる。</li> <li>下肢、体幹の全体像を理解し、説明できる。</li> </ul>	教科書を読み、下肢・体幹の全体像を予習する(30分)。 教科書を読み、下肢・体幹の基本を復習する(30分)。
2	股関節の運動 ① 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨盤環・仙腸関節・股関節の構造と機能について説明できる。</li> </ul>	骨盤環・仙腸関節・股関節の構造を予習する(30分)。 股関節周囲の解剖学的特徴と機能を復習する(30分)。
3	股関節の運動 ② 筋の働き 運動メカニズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>関節運動に関する用語について説明できる。</li> <li>股関節運動に作用する筋について説明できる。</li> <li>股関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。</li> </ul>	股関節運動に関わる用語と作用筋を予習する(30分)。 股関節の骨運動と関節運動の仕組みを復習する(30分)。
4	膝関節の運動 ① 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>膝関節の構造と機能について説明できる。</li> </ul>	膝関節の骨格構造と支持組織について予習する(30分)。 膝関節の機能解剖について要点を復習する(30分)。
5	膝関節の運動 ② 筋の働き 運動メカニズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>膝関節運動に作用する筋について説明できる。</li> <li>膝関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。</li> </ul>	膝関節に作用する筋と運動方向を予習する(30分)。 膝関節の骨運動・関節運動のメカニズムを復習する(30分)。
6	足関節の運動 ① 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>足関節の構造と機能について説明できる。</li> </ul>	足関節・足部の骨構造と関節分類を予習する(30分)。 足関節の構造的特徴と機能について復習する(30分)。
7	足関節の運動 ② 筋の働き 運動メカニズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>足関節運動に作用する筋について説明できる。</li> <li>足関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。</li> </ul>	足関節運動に作用する筋と走行を予習する(30分)。 足関節の複雑な運動メカニズムを整理し復習する(30分)。
8	頸部・体幹(脊柱)の運動 ① 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>頸椎、体幹(脊柱)の構造と機能について説明できる。</li> </ul>	頸椎・胸椎・腰椎の基本構造を予習する(30分)。 脊柱全体の構造と可動性の特徴を復習する(30分)。
9	頸部・体幹(脊柱)の運動 ② 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>頸椎、体幹(脊柱)の構造と機能について説明できる。</li> </ul>	頸部から体幹の連結と支持組織を予習する(30分)。 脊柱の構造に関する知識を深く掘り下げ復習する(30分)。
10	頸部・体幹(脊柱)の運動 ③ 筋の働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>頸椎、体幹(脊柱)運動に作用する筋について説明できる。</li> </ul>	脊柱の屈曲・伸展に関わる筋群を予習する(30分)。 頸部・体幹の運動を制御する筋の働きを復習する(30分)。
11	頸部・体幹(脊柱)の運動 ④ 筋の働き	<ul style="list-style-type: none"> <li>頸椎、体幹(脊柱)運動に作用する筋について説明できる。</li> </ul>	脊柱の回旋・側屈に関わる筋群を予習する(30分)。 体幹運動の協調的な筋活動について復習する(30分)。
12	呼吸運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸運動について理解し、説明できる。</li> </ul>	呼吸に関わる骨格と呼吸筋の基礎を予習する(30分)。 胸郭の運動と呼吸メカニズムの関係を復習する(30分)。
13	歩行の運動学 ①基本用語 の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行に関する基本用語について説明できる。</li> <li>歩行周期について説明できる。</li> </ul>	歩行周期や歩隔などの基本用語を予習する(30分)。 歩行周期の区分と各相の定義を正しく復習する(30分)。
14	歩行の運動学 ②関節運動 と重心移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行中の下肢関節運動について説明できる。</li> <li>歩行中の重心移動・床反力について説明できる。</li> </ul>	歩行中の下肢関節の角度変化を予習する(30分)。 重心移動と床反力の関係について図を書き復習する(30分)。
15	歩行の運動学 ③筋活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行中の筋活動について説明できる。</li> </ul>	歩行周期ごとの主要な活動筋を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える(30分)。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	( )内はGPA点数
担当教員	友原 望美		実務経験紹介	理学療法士としての臨床経験を5年以上有し、運動器疾患理学療法介入経験もある。	

科目名	リハビリテーション概論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	リハビリテーションの歴史、理念について学習する。障害モデルと生活機能モデルを身近な方を例に挙げながら整理し、リハビリテーション専門職とチームアプローチなどについて学習する。 リハビリテーションに関連する社会保障制度や法規について学習する。								
一般目標	リハビリテーションの理念と、リハビリテーション医療の特徴を理解する。障害モデルと生活機能モデルを理解する。 リハビリテーション専門職とチームアプローチについて理解する。 基本的な社会保障制度の概要について修得する。								
テキスト 参考書等	教科書 リハビリテーション概論のいろは(南江堂)								

到達目標									
知識(認知領域) ・リハビリテーションの理念、4つの分野を説明できる。 ・リハビリテーション医療の特徴を説明できる。障害モデル図、生活機能モデル図を書ける。 ・チームアプローチとは何か説明できる。代表的なリハビリテーション専門職とその役割について説明できる。 ・各制度の概要について基本的な説明をすることができる。									
技術(精神運動領域) ・なし									
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	リハビリテーションの意味・歴史・定義等	リハビリテーションの本来の意味を説明するためのキーワードを言うことができる。リハビリテーション理念に影響を与えた国際的な活動を4つ以上挙げ、簡単に説明することができる。	教科書第1章黙読(30分) 教科書第1章音読(30分)
2	リハビリテーションの必要性①	リハビリテーションの4つの分野、リハビリテーション医学・医療の特徴、地域リハビリテーションの定義を言うことができる。	教科書第2章黙読(30分) 教科書第2章音読(30分)
3	リハビリテーションの必要性②	障害モデル(ICIDH)図が書ける。 ICIDHの問題点があげられる。	教科書第2章黙読(30分) グループワークで使用したICIDHモデル図を見直す(30分)
4	リハビリテーションの必要性③	ICIDH→ICF改定のポイントをあげられる。 ICFモデル図(簡易版)が書ける。	教科書第2章黙読(30分) グループワークで使用したICFモデル図を見直す(30分)
5	リハビリテーションとチーム医療	チームアプローチとは何か説明できる。 チームアプローチの促進因子を挙げることができる。	教科書第3章黙読(30分) 教科書第3章音読(30分)
6	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学に関連する人体の仕組みを説明できる。	教科書第4章黙読(30分) 教科書第4章音読(30分)
7	児童福祉、社会保険、公的扶助	児童福祉の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 社会保険と公的扶助の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。	教科書第5章医療と福祉の違いについて黙読(30分) 教科書第5章医療と福祉の違いについて音読(30分)
8	障害者福祉1	障害を取り巻く概念(ICF、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど)を説明できる。	教科書第5章リハビリテーション関連法規について黙読(30分) 教科書第5章リハビリテーション関連法規について音読(30分)
9	障害者福祉2	障害者総合支援法を中心に、障害者福祉の概要を説明できる。 障害者支援法・障害者手帳で利用できるサービスを列挙することができる。	教科書第5章リハビリテーション関連法規について黙読(30分) 教科書第5章リハビリテーション関連法規について音読(30分)
10	医療保険制度	日本の医療制度の概要を説明できる。	教科書第5章医療制度について黙読(30分) 教科書第5章医療制度について音読(30分)
11	介護保険制度	高齢化の現状、高齢者の現状について説明できる。 介護保険の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 介護保険サービス以外の高齢者サービスを列挙できる。	教科書第5章介護保険制度について黙読(30分) 教科書第5章介護保険制度について音読(30分)
12	地域包括ケアシステム	自助、互助、共助、公助について説明できる。 事例を通し、現在日本の社会保障制度下で利用できる制度やサービスを列挙できる。	教科書第5章地域包括ケアシステムについて黙読(30分) 教科書第5章地域包括ケアシステムについて音読(30分)
13	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学について説明できる。自助具、歩行補助具、車いす、コミュニケーション支援機器、ロボティクスについて説明できる。	教科書第6章黙読(30分) 教科書第6章音読(30分)
14	栄養とリハビリテーション	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割を説明できる。 消化や吸収について説明できる。	教科書第7章黙読(30分) 教科書第7章音読(30分)
15	まとめ	講義内容を振り返りながら再学習し、知識を定着することができる。	教科書アンダーラインを引いた箇所の整理(30分) 教科書アンダーラインを引いた箇所の確認(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	( )内はGPA点数
担当教員	藤井 昭宏		実務経験紹介	理学療法士として10年間、急性期病院で勤務	